

施工 演習4

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試 1

[No.15] 鉄骨工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 鉄骨造の柱脚部を基礎に緊結するために設置するアンカーボルトについては、特記がなかったので、二重ナット締めを行ってもボルトのねじが3山以上突出する高さで設置した。
2. 鉄骨の建方精度の管理において、建築物の倒れの管理許容差を、特記がなかったので、鉄骨精度検査基準((一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書鉄骨工事付則6」)に従い、建築物の高さの1/2,500に10mmを加えた値以下、かつ、50mm以下とした。
3. スタッド溶接において、スタッドの仕上り精度については、仕上り高さを指定された寸法の±2mm、スタッドの傾きを5度以内として管理した。
4. デッキ合成スラブの効果を考慮した合成梁において、デッキプレートと鉄骨梁との接合は、頭付きスタッドが特記されている場合、焼抜き栓溶接を省略できる。

ウラ模試 2

[No.12] 鉄骨工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 構造計算に用いる隅肉溶接の溶接の有効面積は、「溶接の有効長さ」×「隅肉のサイズ」により算出する。
2. 鉄骨工事において、特記により、高力ボルト孔の孔あけ加工をレーザー孔あけとしたので、監理者は、溶損部を含む孔径の精度を±0.5mmとしていることを確認した。
3. 高力ボルトの本締めは、電動レンチを使用しない場合であっても降雨時には行わない。
4. F8T 相当の M20 の溶融亜鉛めっき高力ボルトの孔径については、F10T の M20 の高力ボルトの最高孔径と同じ大きさとした。

ウラ模試 1

[No.16] 防水工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 鉄筋コンクリート造の建築物の屋根スラブに縦形ルーフトレンを取り付けるに当たり、梁との干渉がないことを確認のうえ、ルーフトレンの径が **150mm** であったので、あご付きパラペットのあごの垂直面からルーフトレンの中心までの距離が **400mm** 確保されているように設置した。
2. シート防水工事において、合成樹脂系シートを用いた接着工法については、立上り部及び平場のシート張付けを行った後に、出隅角及び入隅角に成形役物を張り付けた。
3. 接着工法による合成高分子系シート防水工事において、加硫ゴム系シートの立上りの接合幅（重ね幅）については、**150 mm** とした。
4. アスファルト防水工事の屋根露出防水絶縁工法において、一般平場部の最下層には、アスファルトプライマー塗りの後にストレッチルーフィングを全面にわたって張り付けた。

ウラ模試 2

[No.19] 内装工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. ビニル床シートによる床工事において、ビニル幅木を張り付けるための接着剤は、酢酸ビニル樹脂系溶剤形接着剤を用い、粉塵がたまらないように、幅木の仕上がり天端いっばいに塗布した。
2. タイルカーペット全面接着工法において、フラットケーブルについてはタイルカーペットの中央付近に敷設し、フラットケーブルの端とタイルカーペットの端（目地）との間隔を **100mm** 以上とした。
3. 厨房の塗り床仕上げにおいて、短期間の施工が可能で、耐薬品性及び耐候性に優れているメタクリル樹脂系塗床材を採用した。
4. 特殊表面仕上げボードの壁張りにおいて、接着剤が硬化するまで、とんぼ釘で目地部分を押さえた。